

鈴木正三・重成公ゆかりの天草を訪ねて 第4回目

天草研修旅行（令和4年11月28日から30日まで）第2日目

1. 松栄山 東向寺

1-1 寛永8年(1631)「公府有禁制創新寺之令」

1-2 慶安2年(1649) 東向寺 竣工 開山、中華珪法禪師(山口 瑠璃光寺)
寺領高 50石

1-3 仏教の統制 本末制度・檀家制度・新寺建立禁止政策

2. 三河一向一揆 戦国時代 永禄6年(1563年)から永禄7年(1564年)まで。

2-1 三河三ヶ寺と不入の特権

本證寺(安城市野寺町)、上宮寺(岡崎市上佐々木町)、勝鬘寺(岡崎市針崎町)

2-2 三河一向一揆の発端 本證寺発端説 上宮寺発端説

2-3 一向一揆側について家康家臣

本多正信、渡辺守綱、石川康正など。

2-4 空誓(くうせい)

浄土真宗の僧侶。本證寺10世。

加茂郡菅田和へと退去。実栗には空誓が滞在したという屋敷や井戸が残る。

3. 東向寺 歴代住職

13世 瑞岡珍牛 15世 上藍天中 30世 大雲禪龍 31世 行雲守信

3-1 13世 瑞岡珍牛

- ・寛保3年(1743)肥後国天草郡河内村 生まれ
- ・8歳で東向寺9世靈泉恵照大和尚のもとで剃髪
- ・14歳から16歳までの3年間、長崎に遊学し絵画を学んだ。
- ・大宰府の観世音寺で戒学を学んだ。同窓生に豪潮。
- ・下関の笑山寺 海外亮天のもとで修行。
- ・そして東向寺の住職。
- ・寛政8年(1796)2月、松本の全久院へ転住。
- ・珍牛禪師は永平寺の玄透即中禪師のもとで古規則の復古を進めた。
- ・尾張十代藩主の徳川斉朝(とくがわ なりとも)公の帰依を受け、万松寺を退隠後は慶雲軒に迎えられ、後に別院(奉安殿護国院)に発展した。

3-2 15世 上藍天中 と 加藤民吉(磁祖)

- ・延享3年(1746)上藍天中、菱野村に生まれる。
- ・安永元年(1772)加藤民吉、瀬戸に生まれる。
- ・寛政12年(1800)上藍天中、東向寺15世住職。
- ・文化元年(1804)加藤民吉来島の件を東向寺天中和尚が上田宜珍に書状を届ける。
- ・文化元年(1804)加藤民吉、高浜皿山に入山。
- ・文化元年(1804)加藤民吉、肥前有田皿山で修業のため天草を旅立つ。
- ・文化4年(1807)民吉が肥前で習業を終えて再び高浜に寄り、上田宜珍より秘伝を伝授され天草を出立。6月18日瀬戸に帰郷する。
- ・文政7年(1824)7月4日 加藤民吉没。53歳。万岳光天居士。

4. 天草市長 馬場昭治(昭和43年11月2日生まれ)

瀬戸市訪問の折りには、鈴木正三ゆかりの豊田市を訪問しますとの約束あり。